

外苑日記

35代 4回生 山本靖朗

正門を入り、銀杏並木を通りぬけると、初夏の日差しと共に木々の薫りが漂ってくる。普通の学生は、それだけしか感じないんだろが我々探検部員は違う。

外苑の季節が再びやって来たのだ。1回生には、まだわからないだろうが、外苑を経験したもののにとっては、色々な事が頭をよぎる季節である。

この頃になると、部員の間で「もうすぐ外苑やなー」「誰がCLするんですかー」などといった外苑前の“お約束”的な言葉が聞かれるようになる。自分自身、誰をCLするかはすでに決めているのだが、「まだきめてないなー」と後輩達（1～3回生）をかわすのである。

すると1、2回生達は「あの人こわいでー」「いやあの人の方が」「やっぱあの人ちゃうか」といった具合にわけのわからん話になるのである。

聞いていて滑稽なことである。3回生達は、「あいつの方がCLにむいてますよー」「あいつの方がこわいですよー」というように自分より他の3回生を売込んでくる。これもまた滑稽なことである。

そんな話がしばらく続き4月下旬～5月上旬頃になるといよいよ外苑CL（専門用語で※注“ガイエル”と言うのだが）、発表である。

昼のトレーニングを終えて、集合し円陣を組む。そして「今年の外苑について説明する」というと、後輩たちは“いよいよかー”とそれぞれの心の中で色々感じていることだろう。「今年のCLは鹿野、SLは春日、内山でいく」この時一番大変なのは全部員のなかで、言うまでもなく“CL”である。そのことは、昨年CLをした自分自身、痛いほどよく分かるのである。

「がんばってくれ」としか言いようがないのである。本当に。

そして、時間が経ってくると3回生達は変わっていくのである。普段の活動からトレーニング中まで目付きが“殺人鬼”のようになるのである。1、2回生特に1回生は3回生の事をよく知らないで恐怖心でいっぱいである。

企画会議やトレーニングを無断欠席しようものなら……。そんなこんなで、テントの設営・撤収訓練が誠之館前で始まるのであった。

テントの設営・撤収訓練の練習をしばらく行い、外苑1週間前にいよいよ企画会議において、外苑合宿が議題にかけられるのである。

※注）91年度外苑合宿にて、34代土山が就寝中に発した台詞に由来するものである。

普段行われる合宿の企画会議以上に部室に緊張感が走るのである。

CLは特に、1、2回生からの「歩荷の意味は?」「体に悪いんじゃないんですか?」等といったまたしても“お約束”的な質問に対しての対処をしなければいけない。CLは大変である。CLを含め我々上回生が下級生の質問に答え、納得させて企画が通過する。しかしながら、今年の外苑合宿の企画は合計2時間30分を要した。とても長かった。そして、企画が通過すると

1週間後に控えた外苑合宿に向かって誠之館前からそれまで以上に激しくペグを打つ音が延々と夕方まで続くのであった。

テント設営・撤収訓練の練習においては、昨年1回生だった新2回生の個人差はあるものの成長ぶりが随所に伺う事ができる。自主的に練習の集合時間を決めて集合をかけたり、1回生にテントの建て方を教えたり、1回生達と共に食事を摂りにいったり本当に簡単で何でもないことではあるが、このような事から徐々に2回生達は変わっていくのであらうと思う。そして客観的に見ていて滑稽なのは2回生が「お前、何回言ったら分かるねん!」「お前、遅いぞ!」「練習に遅れるな!」といった言葉が1回生に対して出たときである。なぜなら去年上回生から言われていた事を1回生にそのまま“オウム”のように言っているのである。それを神妙な顔つきで聞いている1回生達を見ていると“また、こいつらも来年の1回生に言うんやろな”と思ってしまうのである。本当に滑稽である。様々な事が在り、いよいよやってきました外苑合宿の当日。

1、2回生の緊張は言うまでもなく、CLの緊張は想像を越えるものである。誠之館前に昼休みに集合である。世間一般の学生は春の優しい光を浴びての楽しい昼休みに・・・

点呼をとり、いざ出陣。やって参りました思い出の地“関西大学外苑”へ。さすがに4回生ともなると、“外苑”は過去の思い出となるものであり、1回生、2回生、3回生の時の自分自身とダブらせてそれぞれの学年の後輩たちを見る。

懐かしさに浸りながら、後輩たちを見ていると自然とほくそ笑んでしまうのは何故だろうか。私は、その笑みを隠しつつ、後輩たちに心のなかでエールを送るのであった。

外苑を少し覗いてみよう。食事当番は2時ぐらいに起床して準備を始める。前の日は10時ぐらいまで起きているのにである。そして、4時過ぎに朝食である。重い砂を担いでいる、彼らは食べられるのであらうが(無理遣りたべているのかもしれないが)、砂を担がず指揮もしない4回生以上の人間には、きつい一言である。食事を済ませた後は、後かたずけの為に時間を指定され、水道まで全力疾走である。この様子(春の優しい日差しが射す学内の静かな昼下がり、学校の裏山から、こ汚い同じ服装をした連中が、目をとばしながら、鍋や食器やポリタンクをもって一目散に全力疾走してくる)を、まのあたりにする学生諸君はきっと心の中で、こう咳くのであらう。

“この人達、取り憑かれてる・・・”と。

これは、朝食、昼食、夕食、そしてデザート
の時間(“なにが、気取ってデザートやねん!”

と1回生の時から思い続けている。)にやってくる食後の軽い?運動である。あっさりした物を食べた後は、走っていても然程気分を悪くするものでもなく、食器や大鍋の汚れ落ちはスムーズなのである。

しかしながら、中には厄介なメニューの時もある。それは、何をかくそうカレー様の時である。このカレー様は、食器や大鍋の汚れ落ちは、ひどい。そして、走っていても先程食したカレー様が、今にも口元から“今晚わ”と言って出てきそうになるのである。さらに“こいつ”は、たちが悪い。次の日の朝食の味噌汁やご飯までもカレー風味に変えてしまうのである。カレー様は本当に厄介である。なのに何故か、毎年カレーがメニューに入っている。我々には、学習能力が無いのだろうか。いやいや、そんな事はない。何を隠そう我々は、自らに試練を課しているのである・・・?。

そして、いよいよ朝の爽やかトレーニングタイムである。

外苑での最大難関の時間である。40キロ前後のキスリングを担いでの緑地までの長くて、辛い行進の始まりである。キスリングを持ち上げるのにも、一苦労の人間が必ず存在する。そういう後輩を周りで囲み3、4回生が励まし?担ぎあげさせるのである。

緑地までの道程は、長い。それぞれの人間性が伺える。余裕の人間、本当に辛そうな人間を演じている脳天気な人間・・・

緑地に着くと、わずかな休憩を取り、直ぐ様折り返しである。“行きはよいよい、帰りは怖い。”まさにこの言葉の意味を身をもって体験できる

のである。

帰路では、後輩たちの中に“アクター”は存在しない。辛さを演じていると本当に辛くなってくるものなのである。(本人の体験談)

先頭が学校に到着しても、1、2回生は全員すぐには揃わない。50分ぐらいしてから最後尾が到着する。キスリングは、所属している班員が全員揃うと下ろすことができるのであるが、なかなか班員全員が揃わない班の人間は大変である。到着するまで、担いだままである。班員が全員揃い、キスリングを下ろすと、テントの設営・撤収訓練である。

外苑前の練習の成果を出す時である。しかしなかなか、終わらせてもらえないのである。練習どおり成果を出す人間と人間の組合せなど3回生は求めているのである。つまり関西弁で

“ツボをこく”という言い回しがあるがまさにそういう組合せを求めているのである。班のなかの弱点を突きまくるのである。当然、全責任は班の長にあるわけである。

テント設営訓練は、OBの方々にも経験がおりのように、1、2回生は“ボケ”をかましてくれるものです。それも“天然”のボケを。

“声をだせ”と3回生から指示されると、それに応えたつもりなのであろうが全く訳の解らないことを叫ぶ者、そして踊りとび跳ねる者・・・

最近流行の、ちょっと“痛い”新興宗教団体のようである。

彼らが、一生懸命テントを立てている間に、4回生の唯一の仕事である“歩荷ジュース”作りがある。探検部に入りこの4年間に1度たりとも、美味しいと思ったことのない代物を作る

のである。過去の思い出深いものは、アボガド入りのジュースである。腐った魚を食べているようであった。しかも、生暖かい代物である。今年は我ながらとてもフルーティーな仕上がりであったと自負するのであるが、美味しいとは全く思わなかった。

しかしながら、早朝の歩荷とテント設営訓練のお陰で、めっきり頭が弱くなっている彼らにとっては、そんな事は関係ないのである。

このような爽やかなトレーニングが4日間続く。この4日の間、後輩たちが何かを考えている目をしている時がある。昨年自分がCLをしていた時には、全く気付かなかった目をしている。

しかしその目の裏には何らかの闘志があるのである。

その目を見ていると、後輩たちが頼もしく思える。

たかが4日間である。されど4日間である。この外苑4日間で様々なことを学ぶことができ

るのである。学ぶことはできるが、そのことを自分自身で、本当に理解し行動に移す等ということは、外苑を経験したからといって直ぐ様出来るかという、決してそうではないと私は確信をしている。それは、技術云々等では決していない。それは、“人”である。もし、外苑合宿を終え直ぐ様、君達が変わったと錯覚するならば、君達は“安価なロボット”である。

外苑を終えて直ぐ様、何かしら自分自身が変わったと“幻想”に陥らないでもらいたい。上回生が、ましてや外苑自体が“人”を変える等ということは決してありえない事である。そんなことには、私は勿論期待などはしていない。期待しているのは、外苑後の部活動の中で様々な事を通して君達自身の中で考え、そして自分自身で行動を執るという事である。

外苑自体で人はかえられない。しかし、外苑は何らかのきっかけを君達に投げ掛けているのではないだろうか。

